



© UNICEF/BANA2008-00705/Noorani

HIV/エイズの前進はひどく遅い

—BBC（英国放送協会）、2008年6月2日

HIV/エイズ

経済が急激に落ち込み、物価が上ると、赤字がレッド・リボン（国連合同エイズ計画のシンボルマーク）に暗い影を投げかける恐れがある。

2008年、エイズとの闘いにおける最近の前進が、水の泡となる可能性があるということを、アドボケート（政策提言者）たちは言い続けた。彼らは、世界的な景気後退の中で、財政面での約束が履行されなくなれば、多くの人々の命が失われるであろうと警告したのである。

8月にメキシコシティで開かれた第17回国際エイズ会議で、ユニセフの事務局長は、「約束を守る：子どもたちのために、エイズと闘おう」と名付けた分科会を主導し、治療面・予防面での成果・成功は「何人の命を救うことができるか」で測ることになるだろうと強調した。10月、アイリッシュ・エイドとユニセフは、ダブリンでHIV/エイズの影響を受けた子どもた

ちのためのグローバル・パートナーズ・フォーラムを共催したが、これには42カ国から200人の代表が集まった。このフォーラムでは、HIV/エイズが猛威を振るう国々で、子どもの貧困に対処すること、家庭を支援する社会サービスのパッケージを提供することが要請された。

母親と子どもたち

ユニセフとそのパートナーたちは、HIV感染検査とカウンセリングが、妊婦の定期健診や出産検査の中に含まれるよう強く働きかけ、同様に、抗レトロウイルス薬へのアクセス拡大を推進してきた。多くの国々は、妊婦からの検査を受けたいという要望を必要とするオプトイン（opt-in）方式ではなく、HIV感染検査を定期健診などの機会にすべての妊婦に受けさせる前提にしておき、拒否したい人は拒否できるようにするオプトアウト（opt-out）方式を採用している。

南アフリカでは、エイズの小児治療と母子感染の防止（PMTCT）において、ユニセフは推進役となっている。2008年、ユニセフはテレビ、ラジオ、印刷物を使って大々的なキャンペーンを展開して、人々の注意を喚起し、HIV関連のサービスへの需要をかきたて、乳児にHIVを感染させない予防策を取ろうとする人々に対する偏見・差別を減少させる努力をした。さらに、ユニセフはステークホルダーと共に、国のPMTCTガイドラインを見直し、検査、抗レトロウイルス薬治療、乳児がHIV感染しているかどうかを早期に診断するための基礎的なステップとなる乳児の6週間検診時の乾燥濾紙血液検査などの導入に努めた。

ドミニカ共和国では、ユニセフは「HIV/エイズと共に生きる人々のドミニカ・ネットワーク」と協同で「救済技術」を導入するため、ピア・カウンセラーを養成した。HIV感染テストで陽性だったにも関わらず、検査結果を聞きに来なかった妊婦——1,370人のHIV感染女性のうち595人——の家を訪問することで、カウンセラーたちは521人をHIVクリニックに向かわせることに成功した。10,747人の妊婦には、出産前および出産後のカウンセリングが行われた。

青年と若者たち

HIVと若者に関しては朗報がある。多くの国々で、HIV感染が15～24歳の若者の間で減少し、場所によってはこれが大幅に下がったところもある。このプラスの前進を阻んでいるのがサハラ以南のアフリカで、特に感染率が15%を超える国では、女の子と若い女性たちがHIVに非常に感染し易い状況にあるという事実である。感染リスクが高まる要因は「不平等」であり、女性が同時に複数の相手と性的関係を持たされたり、世代間セックスやジェンダーを原因とした性的暴力に晒されたりしている。

ユニセフは、15～24歳の若者の感染率を低減するために重要な役割を果たしている。政府と協同で、最も感染リスクの高い若者たちに特化した、核となるHIV予防支援活動を立ち上げ、ジェンダーに配慮した情報とサービスを提供するよう促している。

若者による参加を得ることで、効果的なHIV防止イニシア

ティブが可能となる。例えば、スワジランドでは、ユニセフが支援した12日間の「国を歩こう」キャンペーンを若者たちが主導した。参加者は国境から国境へと、200キロをトレッキングし、要所要所でエイズに関する知識を伝え、娯楽を通して、人々の考え方を変えていった。これには7,000人近くが参加した。

ネパールでは、ユニセフが「サーシ・サンガ・マンカ・クーラ」（SSMK＝最高の友達と話す）という若者向けの若者による全国版のラジオ・ショーを展開した。このショーは毎週650万人以上が聞いている。さらに、ユニセフの支援を受けて、SSMKと非政府組織 Equal Access Nepal は、「世界エイズ・デー」に著名人とHIV陽性の選手たちが出場する「友好的で包括的な」サッカー試合を主催した。このイベントの全国生放送は、寛容の心とHIV/エイズについての理解を強調し、チケットの売り上げは、HIVに感染した子どもたちの支援に使われた。

アドボカシー

ユニセフが世界的に展開している「子どもたちのために、エイズと闘おう」キャンペーン（「子どもとエイズ」世界キャンペーン）は、「エイズの流行の影で影響を受けている」子どもたちの強力な代弁者となっている。キャンペーンでは「4つのP」—— Preventing mother-to-child transmission（母子感染の防止）、Providing paediatric treatment and care（小児治療とケアの提供）、Preventing infection among adolescents and young people（若者の感染防止）、Protecting and caring for children affected by AIDS（エイズの影響を受けている子どもたちの保護とケア）——を強調している。

2008年、このキャンペーンではエイズの課題を、データで裏づけられた3つの発行物——“Children and AIDS: Second Stocktaking report” “Children and AIDS: Third stocktaking report” “Children and AIDS: Country fact sheets”——でさらに明確化させた。

現場で直接携わっているか、世界的な舞台でアドボカシーに携わっているかに関わらず、ユニセフは、エイズの脅威から解放された世代が実現するまで、その手を休めることはない。



© UNICEF/NYHQ2008-0876/LeMoyne

襲い来る 脅威と闘う

ハイチの悲劇的な事実——西半球で乳児死亡率と妊産婦死亡率が最も高い、慢性的な政治不安、根が深い貧困問題、季節性のハリケーンに対する脆弱性——に埋もれて忘れられているのが、逼迫したHIV/エイズ流行の問題である。ハイチのおとなのHIV感染率は高い。しかし、感染検査で陽性を示した人々の治療へのアクセス率は低く、HIV陽性の妊婦で抗レトロウイルス薬治療を受けられる女性は5人にひとり、子どもでは10人にひとりにとどまっている。

ハイチは長きにわたり、混乱と貧困に悩まされ続けてきた。食糧価格の高騰は、2008年、ハイチをさらなる危機に晒し、4月には暴動が起きた。夏の終わりと秋の初めには、熱帯性の猛烈な嵐が吹き荒れ、国中に損害を与えた。家々は水に浸かり、学校は形をとどめないくらい損壊し、国土は荒果てた。

当然、人的支援は人々の命を救うことが優先された。その中で、緊急の危機に対処しながらも、緊急事態下で主導的立場にあったユニセフは、HIV/エイズの母子感染防止、HIV感染した人々に対する治療、若者に対するエイズ予防教育などの地道な活動を通して、エイズの慢性的な脅威を防ぐ努力をした。

ハイチの山岳地域であるCentral Plateau（中央高原地帯）は、国の中でも最も貧しい地域であり、ここに住むHIV感染者たちはザンミ・ラサンテ保健センターに向かう。この施設はボストンに本部を置くNGOであるPartners in Health によって1980年代に設立されたセンターである。ユニセフの支援を受けて、ザンミ・ラサンテ（クレオール語で‘Partners in Health’の意味）は地域の低所得者層の人々に対して、無料の保健ケアを提供している。その中には、無料の包括的なエイズ治療も含まれ、抗レトロウイルス薬による治療も受けることができるのである。研修を受けた地域の人たちが医薬品の管理にあたり、多

くの場合が個別訪問で、HIVと共に生きる人たちに社会的な支援を提供している。もともとの診療所はザンミ・ラサンテ社会医療複合センターへと拡大され、HIVに感染した子どもと女性を治療するための成人・小児を対象とした入院病棟を備え、トータルケアを提供している。

HIV/エイズと共に生きる人々の治療のほかにも、ユニセフは、特に若者を中心とした人々に対する感染予防の努力を行っている。ハイチでは、15～24歳の若者の大半は、HIVに関する包括的な知識を持ち合わせていない。最近の調査によると、この年齢グループの若者たちで、15歳よりも前に性的な活動をしている若者たちが増加していることが分かっており、これは状況の悪化につながる。

ユニセフは、HIV/エイズに対する注意喚起を積極的に支援し、40万人の若者たちに知識を提供してきた。2008年には約5,000人がHIV感染検査を受け、868人がユニセフが支援する診療所で、HIVや性感染症に対するサービスを受けた。ラキャイ・ラクー・プロジェクトと協同で行っているプロジェクトでは、路上で暮らす375人以上の子どもたちに、シェルター、食料、保健サービス、教育を提供した。暴力、虐待、商業的性的搾取の被害を受けやすい若者たちに対するケアを通して、エイズの脅威から自分を守る能力を強化する支援を行っている。

ハイチは人道支援対象地域の中でも優先順位が高いところである。ユニセフは、安定と平和への困難な道のりの中で、エイズの治療と予防に関する重要なゴール（目標）が犠牲にならないよう努力を続けていく。